

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	自然環境実習 [Practice of Environmental Biology]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710021	授業形態	実習	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	新谷 喜紀			学位授与の方針 との関連	DP2(1)		
授業概要	<p>本実習では、身近にも種々の生物が暮らしており、その分類群や生態系におけるそれぞれの役割について学ぶことを目的とします。</p> <p>山にも川にも街の中にも多くの野生生物が生息しています。南九州大学の都城キャンパスの近辺にも多くの生物がいます。これらは、人の生活に間接的に影響を与えていなくても、寄生者と寄主だったりするといったように環境中で互いに何らかの関係があったり、間接的に人に関係があるかもしれません。しかし多くの種は通常人に気づかれることはない。本実習では、身近にいる生物の分類や生態、その観察法や標本作製法を学び、自然や環境に対する理解を深めていきます。</p>						
関連する科目	<p>これより前に履修しておくべき科目は昆虫学です。同時期に動物分類学を履修していると相互に理解が深まるでしょう。この科目の履修後は、理解を深めるために動物生態学を履修することが望ましいです。</p>						
授業の進め方と方法	<p>はじめにパワーポイントスライドで、その日の実習の内容を説明し、その後で、採集、標本作製、観察、飼育などの作業をします。3～5人の班に分かれて行動をすることもあり、班の中で互いの成果について相互評価するようなアクティブラーニング型の実習を展開します。全15回のうち、4回程度は学外で行います。毎回1～2枚の資料を配布します。資料には学んだことを書き込めるようにしてあります。</p>						
授業計画	<p>第1回 はじめに 自然環境実習という科目について概説します</p> <p>第2回 昆虫の分類・標本作製 昆虫の標本作製し、分類について学びます</p> <p>第3回 動物の多様性調査 野外で小動物を採集し、多様性調査を行います(複数地点)</p> <p>第4回 宮崎大学附属演習林での溪流の動物の観察・植物標本作製 溪流の動物の採集と、植物標本の作製を行います</p> <p>第5回 絶滅危惧動物の生息地の観察 絶滅危惧種のチョウの生息地にいき、森林の成り立ちを学びます</p> <p>第6回 植物の分類 1: 単子葉植物</p> <p>第7回 植物の分類 2: 双子葉植物 草本植物の分類について学びます</p> <p>第8回 昆虫の飼育 昆虫の飼育法について学びます</p> <p>第9回 寄生性昆虫の観察 寄生性の昆虫について学びます</p> <p>第10回 陸生小動物の観察 陸生の微小動物を観察します</p> <p>第11回 水生微小動物の観察 水生の微小動物について観察します</p> <p>第12回 博物館の見学 博物館を見学し、博物館の役割について学びます</p> <p>第13回 土壌小動物の観察 土壌小動物を観察します</p> <p>第14回 プランクトンの観察 プランクトンを観察します</p> <p>第15回 データ整理 多様性調査で得たデータについて、プレゼンテーションファイルにまとめます</p>						
授業の到達目標	<p>・身近な生物の分類や生態、飼育・観察法に関する技術や知識を習得し、説明できるようになること。</p>						
授業時間外の学修	<p>材料の採取や、動植物について調べたりスケッチをする課題 【予習】毎回の講義前に配付する資料を見て予習をします。(1時間程度) 【復習】毎回の講義で配付した資料を見て復習をします。(1時間程度)</p>						
課題に対する フィードバック	<p>課題の進捗状況を確認したり、最後に実習中に書き込みなどをして勉強をした資料を提出してチェックする。</p>			評価方法	<p>実習内容と関係のある生物のスケッチなどの提出物</p>		
テキスト	<p>特になし</p>						
参考書	<p>なし</p>						
備考	<p>天候などによって予定の変更がある</p>						